

あ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

勇気 笑顔 協力

1月28日、総会を開き、議案書の内容は、原案どおり承認されました。先ずは、この通信の発行までに間があり、ご報告が遅れましたことを、お詫びいたします。

さて、去年は、東日本大震災と原発事故の影響が多方面に陰を落とし、特に原発関連では、私たちの活動にも少なからず影響がありましたね。実に、多くのことを考えさせられましたし、自然エネルギー推進の町宣言の要望や脱原発と原発国民投票の署名活動にも取り組みました。(これらのメ切は延長されており、現在進行形です。)今年度は、引き続き、脱原発と自然エネルギー活用の推進に向けた活動と、開かれた町民のための議会推進を、重点項目として取り組んでいきます。家庭でもできる身近なエコライフ情報から政策まで、関心を持って情報収集し、無理のない取り組みからはじめます。議会については、傍聴者を増やし、議会改革に対する住民サイドの要望をまとめていきます。また、資源循環工場の松葉による大気調査を他団体と協同実施します。市民が独自に調査データを持つことの

意義から、全額カンパで実施しますので、ご協力をお願いできればと思います。そのほか、国際的にも社会情勢が緊迫化していく中、恒例の「今しか聞けない戦争体験のお話し」にも、より多くの参加を得られるよう取り組みます。会員交流の場も設けたいですね。

ところで、まちネット寄居は、2003年3月の設立総会から数えて、今年、10年目に当たります。**祝 10周年!** 代理人を議会に送り出すことは叶っていませんが、主体的に考え、判断し、等身大でできることについては、少しの勇気に笑顔と協力で、取り組んでこられたと思います。小難しく考えると一歩も踏み出せなくなるので、ごく日常的な言葉で考え合い、声に出してきました。これからも、市民感覚でおかしいと思うこと、こうすればいいのにというアイデアを、生活者の目線で察知し、暮らしを取り巻く様々な問題に眼を向けていきましょう。町長や議員を選ぶだけでなく、私たち一人ひとりが寄居町の政策立案に関与しているのだという意識を持つことが大切です。小さな声を集めて大きな声になればなるほど、よりフィット感のある施策を促せるのです。今年度も、勇気・笑顔・協力で一緒に活動していきましょう! よろしくお祈りします。

10周年

祝

まちネット寄居





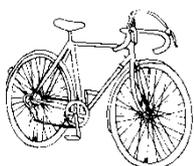
エコタウン構想について 寄居町タウンミーティング

2/20 の川北地区タウンミーティングに参加した。住民参加は7名ほど(少ないなあー)。町長の挨拶からは、日本の先進モデル事業として寄居町から発信したいという意気込みを感じ取れた。

しかし、町は「電力100%自活住宅」のコロニー的ニュータウン整備構想は持っていて、町内全体としての地産地消エネルギーについては、検討前段階という印象を受けた。何れにせよ、私たち住民の協力無くして成功はあり得ない。

私たち住民一人ひとりがエネルギーのキーマンである。たとえば、私たちがゴミの分別をしてゴミを減らせば、エネルギーはプラス、いい加減に水分たっぷりの生ゴミをゴミ出しすれば、それだけ焼却にも負担がかかるのでエネルギーはマイナスとなる。

週2回の買い物を1回で済ませ、買い物袋を持参すれば、大きなプラス。このような啓発には、お金がかからない。住民にいかに伝えるかが行政マンの腕の見せ所！小さなことでも、できることはどんどん始める姿勢こそ、町の本気度が伝わり、住民にも協働の意識が芽生えるのではないかと思う。そして、町内外にその本気度を知らしめるためにも、『自然エネルギー推進の町宣言』を実現して欲しいと切に願うのである。 Y.S



3月議会



初めての議会傍聴で 感じたこと 思ったこと

私は、議会の傍聴は初体験。今回の3月議会では、①有志での陳情「県内の放射性廃棄物の処理がもたらす、未知の不測の事態を回避するための提案」の読み上げを聞くための本会議第一日。②「寄居町 耕す人の会」の請願の紹介議員代表が行う請願の趣旨説明と質疑応答を聞くための本会議第二日。③紹介議員の一人、神田議員が放射能関連の一般質問を行った本会議第五日。④(委員会の傍聴はできないので)総務経済常任委員会での審議内容を委員長が報告する本会議最終日。の4回、仕事の合間を縫って傍聴しました。前号の通信で坂本議長が「ぜひ議会に足を運んでください」と語っていましたが、平日の日中、時間をさける人は少数です。ネット中継するほどの中身はない、全く形式的で時間の無駄みたいな部分もあることが分かった反面、どの議員が真剣に勉強して町のために発言しているのかがリアルにわかる面白さも感じました。これまでは、議会だよりも読まなかった私でも、議会と行政の関係を肌で感じる事が、町民としての自覚に繋がると思いました。小学生の社会科見学で議会傍聴を取り組めば、寄居町の未来が明るくなるのではとも、思いました。 Y.I

議会のインターネット中継を!

本会議2日目に足を運ぶ。議案数17項目
規約の変更、町条例の制定、一部改正などが集中。議案の内容説明を聞いてみると私たち町民のあまり知らないことがあまりに多いことに驚かされる。細かなことだが、一つ一つを条例として制定し、施行してゆく行政の役割を改めて認識する。公的施設の指定管理者の指定について何十年と独占するように同じ代表者が当たり前のおさまっている実態も初めて知った。一般質問の傍聴では町政のほんの一部しか見えない。本会議の傍聴は不可欠と改めて知らされた。と同時に議場へ足を運ぶのはもちろん大切だが、今後、ありのままの議会状況を伝えられるよう、議会のインターネット中継を一日でも早く実現して、多くの町民がわずかな時間でも関心を持てるように働きかけていきたい。それまではともかく議会傍聴へ行きましょう!! H.O

提案型の議会運営を

3月議会一般質問は、13名の議員により2日間に渡って行われた。私が傍聴できたのは、神田議員の放射性廃棄物・焼却灰受け入れに関する質問だった。それに対する、町の答弁は、震災がれきについては、県から正式に要請があれば、町議会や地元協議会とも連携して対応していくこと、環境整備センター(埋立地)に搬入されている一般の焼却灰または燃えがらに関しては、1~2月に24年度搬入希望団体の搬入物の検査で1kg当たり9~1100ベクレルであり、今後7~8月にも検査すること、この4月から各団体4半期に1回の放射能濃度測定の実施と報告を義務づけていること。放流水に問題は無いことから、浸出水の測定はして

いないことなど。また、学校給食の1週間分丸ごと測定の測定限界値は、1kg当たり10ベクレル以下であることなどの答弁があった。神田議員の熱弁は素晴らしかったが、もっと踏み込んだ町長の考えを聞きたかった。現状では、これからも新たに起こり得る放射能汚染、住民の不安をどうすれば払拭あるいは軽減できるのか、国や県の意向ありきではなく、住民ととことん話し合いながら、実践して欲しい。この一般質問では、ほかに、防災対策、自転車事故対策、発達障害児支援体制、中央公民館老朽化対応、エコタウン計画、教育・生活環境、寄居PAスマートフェジや観光再生ビジョンに関連する質問などが上げられた。ところで、先日、総合振興計画の後期基本計画策定概要版が各戸配布されたが、文字通り受け取れば、寄居町の大転換期となる。多種多様な取り組みを成功させて行くには、タイトなスケジュールだとなりそう。議員の皆さんには、議会のスマートな進行のために、容易に調べられる数字などは議場で聞かずに事前準備し、ぜひ、提案型の議会運営をお願いできればと思うが、いかがだろうか。

Y.S

ダンボールコンポスト始めてますか!?

まちネット寄居では毎年、台所の生ごみは宝物とその普及に力を入れてきました。生ごみは一般消却をすると大変なエネルギーを必要とします。コンポストで堆肥づくりをすれば、庭の植物も、畑の野菜も元気に育つ、一石二鳥。初めてだけどやってみたいと思っている方、ぜひご連絡ください。基材とテキストがあります。(有料) また、説明も致します。

問合せ先 大北 (582 - 4073)

「原発国民投票の実現のために国へ意見書提出を」 請願

3月議会に「寄居町 耕す人の会」が提出

私が所属する「寄居町耕す人の会」は、昨年夏に、「福島第一原発事故を受け、200kmはなれた地で起きた悲劇が、自分達の生活をも変えてしまった現実に向き合い、身近なところから、少しずつ、出来ることからやってみよう」と発足しました。9月議会には、まちネットと同様に、「自然エネルギー推進の町宣言を求める要望書」を提出しました。そして、3月町議会に向けて、「原発国民投票の実現を求める意見書を国会・政府に提出していただきたい」という請願を提出することを、11月の設立総会で決定しました。自分たちの使うエネルギーの在り方に責任を持ちたい、原発問題の当事者として一票を持ちたいという願いを、私たちの一番身近な議会を通じて国政に届けるために。

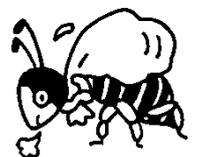
しかしながら、「原発の在りようを決めるのは、私たち国民一人一人だ」という「みんなで決めよう原発国民投票」のチラシを読んで「回覧で回したいくらい」と看破した人もいたくらい、ごく当たり前のことが、町の議員にはなかなか伝わりません。すぐ、「原発を止めたら経済が成り立たなくなる」などと、私たちの請願の意図を「反原発・脱原発を要求している」と決めつける議員が多く、また、「ここは大丈夫なんだろう」と放射能汚染の現状にも疎い議員もいました。署名活動は年末から始めましたが、請願を紹介する議員

(審議する総務経済常任委員会ではない、文教厚生常任委員会所属の議員)が、地元男衾では見つかりません。やっと、「まちネット寄居」を通じて、町民の声を議会に届けるのが議員の仕事と、これまでも町民からの請願を多く引き受けてきた用土の岡本議員が、紹介議員代表を引き受けてくださり、神田議員、大久保幸夫議員も加わり3名の紹介議員を得ることができました。議会開催前には、会員や協力者とともに、中身の濃い勉強会を2回持つことで、この請願の意義を再確認し、実現への思いを強めることができました。

署名数1135筆の請願は継続審査

請願とともに提出した署名は、「まちネット寄居」と「生活クラブ生協寄居支部」の協力もいただき、町内有権者の3%を超える代表ほか1135筆となりました。しかし、請願の審査を付託された「総務経済常任委員会」では、「継続審査・今回の議会では採決せず」という結論になり、本会議でも、紹介議員3名と唯一の賛成議員であるT議員が、寄居町議会史上に残る名演説を行いました。多数決で継続審査となりました。

報告 伊藤泰子



「4・8くまがやアクション」に参加して

昨年の3・11以降、東京や県南では脱原発の集会やデモが繰り返して行われていましたが、私たちの住む県北では、意思表示のできる大きなイベントは行われてきませんでした。事故後1年を経て3月11日に初めて、お隣の小川町で「さよなら原発」の集会とパレードが行われ200名ほどの参加があり、20日には熊谷で小規模なデモがありました。そして、4月8日の「くまがやアクション」には、県北最大500名を越える参加者が集まったのです。実行委員会の呼びかけ→

「4・8くまがやアクション」は、原発なんかいらぬ！放射能なんかいらぬ！と思っている市民レベルのアクションです。政党や組織や個人の感情の枠をこえて、多くの方が集まることで「声を形に」できます。

多くの賛同団体の中に、「まちネットワークよりい」も加わりました。当日読み上げられたメッセージ→『4.8くまがやアクション』の発信力に期待します！私たちがここに至るまでには、あまりにも大きな代償を払ってきました。この恐怖と不安と怒りをバネに、揺るぎない脱原発・廃炉に向けて、ともに声を上げていきましょう！

まちネットワークよりい 代表 篠原由実子

私は、当日、賛同団体(?)の一つの菜園「野の扉」のメンバー(?)として、「みんなで決めよう原発国民投票」の署名活動をしました。県南から駆け付けた「みんなで決めよう原発国民投票」埼玉賛同人会(「みん・たま」)の仲間と一緒に、200筆を越える署名を獲得。色々な方と話ができました。30年ぶりくらいのデモ行進でも、熊谷のまちゆく人たちに、「原発のことをみんなで考えましょう」と声

をあげました。これからも、「福島を忘れない」「原発はいらぬ」「子どもたちを放射能から守ろう」と、つぶやきを声に、声を形にしていきたいと思います。伊藤泰子



教えて こんな節電やってま〜す!!

原発に頼らない社会への第1歩。わかっていてもなかなか実践、継続は大変というのが今までの節電対策。でも今度ばかりは三日坊主というわけにはいかない現実です。本当に真剣に取り組まなければと多くの方が感じています。昨年の3・11の原発事故による放射性物質の恐怖を思い知らされた現在、同じことを二度と繰り返させないために、原発をなくしていく意思表示と同時に私たちの暮らしの足元からまずは節電への取り組みと新たなエネルギー開発の取り組みをしていかなければなりません。誰でもできる基本節電はもちろん、我が家流の節電対策の情報をぜひお寄せください。すぐれた取り組みは皆で共有し、普及させていきましょう。

地元にもあったよ

男衾今市にあるトーアコーヒー寄居工場で見つけました。一年ほど前から、駐車場に太陽光パネル1枚を設置して夜の外灯に使用しています。昼間に充電して、さほど明るい光ではありませんが、夜の足元を照らすには十分の明かりとのこと。現在2か所に設置されています。(設置者はワンビシアーカイブス)意外に知られていない新男衾コミセンの太陽光パネル。平成22年にオープンした男衾コミセンの屋根には大きな面積で太陽光パネ

ルが設置されています。どのくらい活用されているのか生涯学習課の社会教育部にお聞きしました。通常は、春、秋など比較的電気使用量の少ない季節では、特別な場合を除いてほとんど施設内の電気は賄えるそうです。真夏、真冬など電気使用量の高い時期及び曇天、雨天時は不足分の電気は購入していますが、全体での施設経費から見ると経費は抑えられています。初期投資にかかっても、現在年間50万円以上の売電の実績があります。公共施設でのモデルケースとして設置されたようですが、それにしてもPR不足です。町民への男衾コミセンの施設案内にも、町のホームページにも太陽光パネルのことは掲載されていません。初期投資を削減するためには、大手の業者へ発注するのではなく、ボランティアワークで設置稼働しているケースはたくさんあります。もっと町民へ働きかけをすることで公共施設のモデルケースを増やすことは可能です。大北秀子

編集後記

冬の寒さが長く厳しかった分、新緑の息吹の感動も大きい。昨年の今頃は、と思い出してみると、日本の社会全体が、いや正確には北日本では、委縮した重い空気の中こんな春の息吹を楽しむこともできないような流れだった。それから一年。新たな重い心と憤りが湧き上がっている。誰もがもう原発に頼らない社会をと感じていたはずだが「原発なしでは日本経済は立ちかない」と徐々に誘導され、放射能汚染の影響はこれからという中で、復興の名のもと、各地に放射線物質の拡散が始まっている。そんな中、地元寄居町でも「放射能から子供たちを守るため」の若い母親たちのグループが立ち上がっている。安心して暮らせる社会を子供たちに繋いでゆくために今できることを！大きなうねりとなるようまちネットワーク寄居もともに取り組んでゆきたい。H.O